

学校教育高度化センターシンポジウム 学びと育ちを保障する学校・教師 セッション1 学びの質を保障する学校づくり

話題提供 学校における孤立、葛藤、成果主義

勝野正章(学校開発政策コース)

職場の様子に関する質問

- 「成果主義に対する意見等に関する調査」の一部
- 2008年3月～4月に実施
- 全国の小学校、中学校、高等学校、特別支学校
- 校長回答数1368→教員調査協力校146
- 教員回答数664(調査協力校1校あたり4.5)
- 本報告で扱うのは、教員からの回答だけ

「教職員が目標を共有している」が80%強

児童・生徒に対する指導に関わる目標が教職員の間で共有されている

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない	合計
度数	199	350	83	21	7	660
%	30.2	53.0	12.6	3.2	1.1	100.0

「いろいろ困難はあるが、教職員は前向きに頑張っている」が約90%

教職員は仕事に対して常に前向きでいる

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない	合計
度数	261	330	52	5	13	661
%	39.5	49.9	7.9	0.8	2.0	100.0

「子どもたちの様子が日常的に話し合われている」が90%以上

児童・生徒の様子が日常的によく話題にされている

	あては まる	ややあ てはま る	あまりあ てはまら ない	まったく あては まらない	わから ない	合計
度数	291	311	48	4	4	658
%	44.2	47.3	7.3	0.6	0.6	100.0

目標共有・協力型の学校

- 目標が共有されている
- 前向きな雰囲気がある(.405**)
- 子どものことが常に話題にされている(.336**)
- 仕事の忙しさに対する不満が少ない(-.130**)
- 管理職の経営方針に対する不満も少ない(-.349**)
- 授業や指導のあり方について自由に意見を述べることができ、どの教師の意見でもあっても尊重されている(.375**)

「困っている教師に対して、手が差し伸べられない」が20%弱

指導や学級運営などに深刻な問題を抱えている教員がいても、積極的に関わろうとしない

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない	合計
度数	23	87	300	241	10	661
%	3.5	13.2	45.4	36.5	1.5	100.0

孤立・葛藤型の学校

- 困っている教師に対して支援がない
- お互いにどんな授業や指導をしているか知らず、バラバラに行われている(.402**)
- 仕事の忙しさに対する不満が多い(.166**)
- 管理職の経営方針に対する不満も多い(.280**)
- 子どものことが話題にされない(-.307**)

「目に見える成果をあげることが第一に考えられている」が30%弱

子どもたちの学力や体力などのテストで目に見える成果をあげることが最優先されている

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない	合計
度数	23	158	352	93	31	657
%	3.5	24.0	53.6	14	4.7	100.0

成果主義・目標共有型の学校

- 目に見える成果をあげることを最優先
- 目標が共有されている(.111**)
- 管理職の学校経営(運営)方針が常に意識されている(.199**)
- 子どもと学習の実態に対する感覚の鈍麻

学校の3つのタイプ

- 目標共有・協力型
- 孤立・葛藤型
- 成果主義・目標共有型
 - 「具体的で客観的な評価」の強調
 - 自治体(教育委員会)からの指導、学校内部における指導
 - 「成果」が数値で示しにくいが故に数値で表せるものに頼る傾向
 - (子どもと学習不在の)「奇妙な一体感」

まとめにかえて

- どうすれば孤立・葛藤型、成果主義・目標共有型の学校を「学習する組織（学びの共同体）」につくりかえることができるか
- 数値で示せる「成果」に頼らずにすむ、教育の質に関する理論と確信
- 成果主義的なPDCAマネジメントサイクルを乗り越えることができる学校経営（論）